

月形町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

月形町の公共交通は、路線バス等が運行しているが、自家用車依存と高齢化により、高齢者や学生等交通弱者の足の確保が課題となっている。また、町内を循環する交通は、スクールバス(3路線)のみであり、住民混乗も行っているが、登下校時の運行のため、帰路はハイヤーを利用するしかないなど、自家用車がない住民は生活面(買い物、病院等)で利用しにくい状況にある。

このことから、町では、令和4年4月より高齢者等交通弱者の町内での外出支援を目的としたおでかけハイヤー事業(ハイヤーを定額で利用できる制度)を実施し、課題解消に努めている。

通学、通院、買い物等の目的で、札幌市や当別町方面へ通じる路線バス(月形当別線)と、岩見沢市方面へ通じる路線バス(月形線)は地域間幹線系統として、また、接続する月形浦臼間の路線バス(地域内フィーダー系統 月形浦臼線)は、浦臼方面から月形高校への通学や、車を運転できない高齢者等を中心に月形町立病院への通院や温泉入浴などで利用されており、生活に必要不可欠な交通である。

今後の人団減少・高齢化を踏まえて、利用促進を図りながら、上記の地域間幹線系統や地域内フィーダー系統を確保・維持し、住民の生活交通手段を存続させていくことを目的とする。

生活交通確保維持の定量的な目標

【月形・浦臼間の平日利用者数】

R7年度(R6. 10. 1～R7. 9. 30)目標値:3, 703人

地域公共交通の現況

【路線バス】

- ・(有)アオヤナギ観光バス(岩見沢月形線1路線)
- ・新篠津村営バス(江別月形線1路線)
- ・(有)下段モータース(月形当別線1路線)
- ・美唄自動車学校(株)(月形浦臼線1路線)

【ハイヤー】

- ・(有)アオヤナギ観光バス(はーとハイヤー)

【スクールバス】

- ・スクールバス一般混乗(3路線)

協議会開催状況

令和7年5月28日 第1回協議会を開催

- 路線バス等の運行状況について
- 月形町地域公共交通計画の評価について
- 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について

令和7年11月10日 第2回協議会を開催

- 地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について
- 岩見沢月形線地域旅客運送サービス継続事業実施計画の変更(案)について

令和7年度事業概要

月形浦臼線 浦臼駅(えみる)～札比内駅前～月形駅 主系統19. 5km、副系統18. 7km(朝の1便を月形高校生用に副系統を設定)

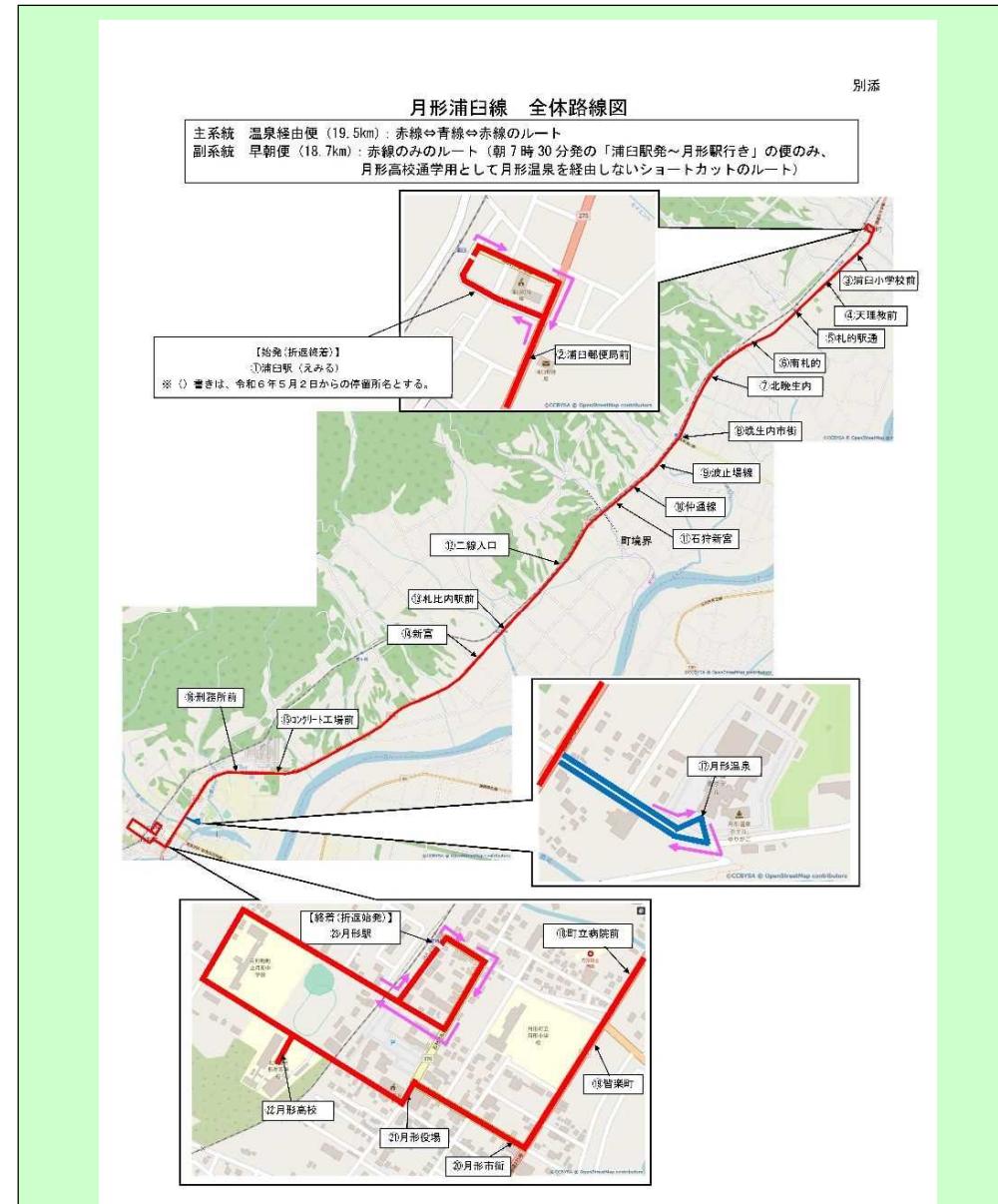
平日:5往復10便 土日祝日:4往復8便 1月1日は運休。 12月31日、1月2日、1月3日は土日祝日ダイヤで運行

令和7年度事業の実施状況

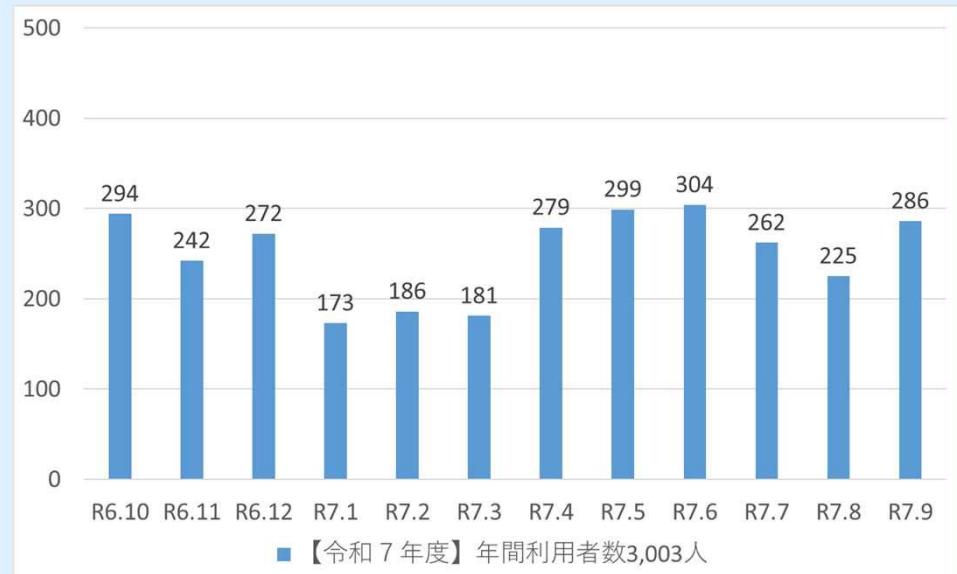
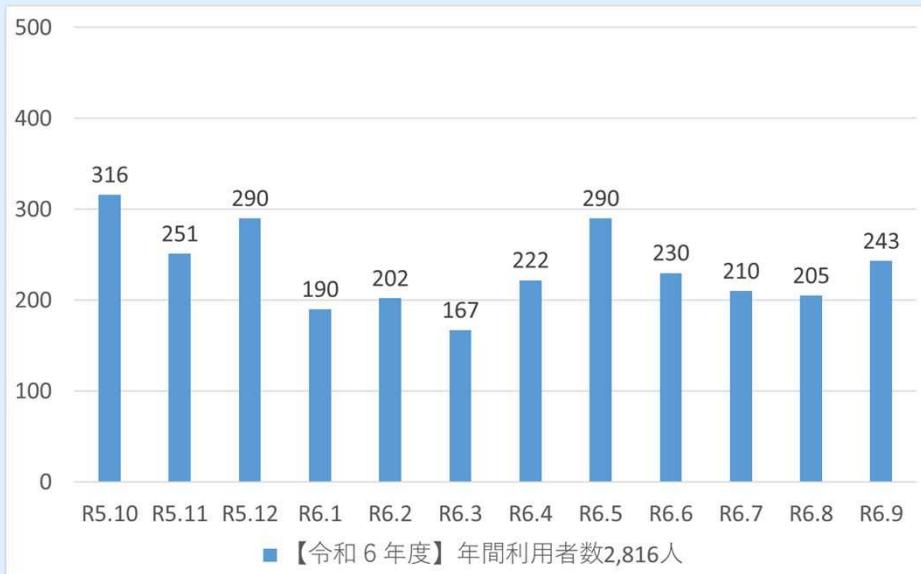
1) プロセス、創意工夫

- ・令和2年4月
JR札沼線の代替バスとして運行開始。
同じく代替バスの月形当別線と、月形駅での乗り継ぎ、北海道医療大学駅でのJRへ乗継ができる限りスムーズになるよう時刻を設定した。
 - ・令和6年10月～令和7年9月(随時)
町内会の集会や各種団体の会議時に、路線バスが運行していることや乗り方等について、説明を行った。
また、町広報紙でも公共交通を特集して掲載し、町全体に周知を行った。
 - ・ダイヤ、路線図の周知方法
町内各施設に紙媒体で設置し、QRコードにより町ホームページやスマホアプリで閲覧できるように工夫している。
 - ・令和7年4月より町内在住の高校生以上の学生等で、町内を運行しているバスに乗車する者に、月額1万円を上限に通学定期券の助成を開始した。
 - ・令和7年7月より町内在住の小学5年から中学3年生を対象に、町内運行のバスに1往復無料で乗車できるお試し乗車券交付事業を開始した。
 - ・令和7年7月26日に月形町夏祭りが開催され、開催時に公共交通利用促進グッズとして、路線図を掲載したうちわを配布した。

2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5)事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

-19-

6)目標・効果達成状況

- ・目標乗車人数3,703人に対し3,003人であった。
- ・利用者の低迷により、地域内フィーダー系統確保維持国庫補助の対象外路線となった。(1回あたりの輸送量1.7人)

7)事業の今後の改善点

- ・高校生以外の利用者ニーズ等を調査し、地域実情に沿った運行形態を検討していく。
- ・令和6年9月より皆楽公園エリアが道の駅に認定されたため、道の駅来客者の利用を促進する取り組みを検討する。
- ・土日祝日便の利用者が少ないことから令和7年10月より4便から3便へ減便する。12月31日、1月1日、1月2日の年末年始に関しては、利用者が減少している状況から3日間運休とする。

8)地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年11月 日

協議会名：月形町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)美唄自動車学校	月形浦臼線 浦臼駅～札比内駅前～月形駅	地域間幹線系統との接続を考慮したダイヤ設定とした。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ・月形高校に通学する生徒の減少により、年間利用者数目標値3,703人に対し3,003人となった。 ・利用者の低迷により、地域内フィーダー系統確保維持国庫補助の対象外路線となつた。(1回あたりの輸送量1.7人)	・高校生以外の利用者ニーズ等を調査し、地域実情に沿った運行形態を検討していく。 ・令和6年9月より皆楽公園エリアが道の駅に認定されたため、道の駅来客者の利用を促進する取り組みを検討する。 ・土日祝日便の利用者が少ないことから令和7年10月より4便から3便へ減便する。 ・12月31日、1月1日、1月2日の年末年始に関しては、利用者が減少している状況から3日間運休とする。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年11月 日

協議会名:	月形町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	月形町は、空知管内の南西部に位置し、人口は(令和7年10月1日現在)2,662人で、高齢化率(65歳以上)が43.9%となっており、市街地域(主な公共施設、商業施設、医療施設が立地)及び国道沿線に人口が集中し、それ以外の地域は民家が点在する農村地域となっている。 令和2年5月にJR札沼線(北海道医療大学～新十津川)の廃止に合せ、令和2年4月に代替バスが運行を開始したところである。月形町は、町内外から通勤・通学者があり、また町外へ通院している高齢者等も多く、代替バスは地域の足を確保する上で必要不可欠な交通手段であるため、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせ、生活交通ネットワークを進めているところである。